

## 日本学生支援機構給付奨学生の推薦基準

三重県立木本高等学校

独立行政法人日本学生支援機構（以下「機構」という。）の募集する給付奨学生採用候補者については、本推薦基準に基づき、学内に設置する給付奨学生採用候補者選考委員会に諮ったうえで、機構から示される人数の範囲内で基準該当者を選考し、機構に推薦するものとする。

### （１）人物について

以下の全てに該当すること

- ① 進学の目的が明確で、希望する進学先及び将来への展望がある
- ② 校則を遵守し、生徒にふさわしい学校生活を送っている
- ③ 学校行事等において他の生徒と協力するなど、十分な協調性を備えている

### （２）学力及び資質について

以下の①、②のいずれかに該当すること（社会的養護を必要とする生徒等（注）は③に該当すること）

#### ① 以下のいずれかに該当する

ア：調査書における学校成績概評が「A」（評定平均値4.3以上）に該当する

イ：上記に準じる学習成績を収め、直近の学習成績に著しい努力が認められる

#### ② ア～ウのいずれかに該当するか又は類似の活動が認められ、かつ、(i)か(ii)のいずれかに該当する

ア：課外活動（部活動含む）に積極的に参加し、成果・成長が認められる

イ：生徒会の役員等を経験し、成果・成長が認められる

ウ：ボランティア、地域活動等に積極的に参加し、成果・成長が認められる

(i)：調査書における学校成績概評が「B」（評定平均値3.5以上）に該当する

(ii)：上記に準じる学習成績を収め、直近の学習成績に努力が認められる。

#### ③ 以下のいずれかに該当する

ア：評定平均値3.5以上の教科又は科目が1つ以上ある

イ：進学先での学修に対する意欲が認められる

### (3) 家計について

生計を維持する者が、以下の①、②のいずれかに該当し（社会的養護を必要とする生徒等の場合は、③に該当すること）、生活環境などを勘案して、親権者からの支援が見込めない等、その者の進学が非常に困難な状況にあると認められること。

- ① 市区町村民税所得割を課されていないこと（奨学金申込年度の課税証明書に記載の所得割額が0円であること）
- ② 生活保護を受給していること（奨学金申込日現在において保護費を受給していること）
- ③ 以下（注）の施設等に入所していること（生徒等が18歳時点で入所等していた（又はしていることが見込まれる）こと）

（注）社会的養護を必要とする生徒等とは、申込時に以下の施設等に入所等している（生徒等が18歳時点で入所等していた（又はしていることが見込まれる））生徒等をいう。

- ① 児童養護施設（児童福祉法（昭和22年法律第164号）第41条に規定する施設）
- ② 児童心理治療施設（同法第43条の2に規定する施設）
- ③ 児童自立支援施設（同法第44条に規定する施設）
- ④ 児童自立生活援助事業（自立援助ホーム）を営む者（同法第6条の3第1項に規定する事業を行う者）
- ⑤ 小規模住居型児童養育事業（ファミリーホーム）を営む者（同法第6条の3第8項に規定する事業を行う者）
- ⑥ 里親（同法第6条の4に規定する者）

申し込み希望者が機構から示される人数の範囲を超え、競合した場合は、評定平均値等、学力を重視し、総合的に校内選考し、機構に推薦するものとする。

・この基準は、日本学生支援機構の基準に沿って平成29年度に本校が策定した。  
・日本学生支援機構の基準変更に伴い平成30年度に健康に関する基準を削除し、学力に関する表記を修正した。